

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●菊花賞は1番人気エネルギーが優勝

10月26日(日)に行われた菊花賞(G I)では、皐月賞・日本ダービーとも未出走ながら1番人気に推されたエネルギー(牡3歳/美浦・高柳瑞樹厩舎)が優勝、G I初出走初制覇を果たしました。鞍上のクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は2023年ドゥレツァ、2024年アーバンシックに続く3年連続の菊花賞勝利で、同レース3連覇は史上初のこととなります。

●坂井瑠星騎手とC.ルメール騎手がJRA年間100勝を達成

10月26日(日)の3回京都9日・第9レースとして行われた萩S(L)ではバドリナートが1着となり、同馬に騎乗した坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)は、自身3年連続3回目となるJRA年間100勝を達成しました。さらに同日の第11レース・菊花賞ではエネルギーが1着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手も、自身11年連続11回目となるJRA年間100勝を達成しました。戸崎圭太騎手、松山弘平騎手に次いで本年3人目、4人目の年間100勝達成となります。

●秋の新潟競馬リーディングジョッキーは丹内祐次騎手

10月26日(日)をもって4回新潟競馬が終了し、6勝をあげた丹内祐次騎手(美浦・フリー)が開催リーディングジョッキーに輝きました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●エーデルワイス賞(門別)は北海道の無敗馬リュウノフライト

エーデルワイス賞(JpnⅢ、2歳牝馬、10月30日、門別、1,200^円)は、4番手前後から3、4コーナー中間で先頭に立った北海道所属馬リュウノフライト(小野楓馬騎手、父ホッコータルマエ)がそのまま押し切り、単勝1.3倍の圧倒的サポートに支えられてデビュー以来4連勝。2番人気のトウカイマシエリが1馬身半差の2着、3番人気のタイセイフレッサが3着に入り、アパタイトテソーロは8着、ミスバレンシアは最下位の11着でした。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンドの結果

2025ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド大井は10月23日に実施され、第1戦は神尾香澄騎手(川崎)、第2戦は遠藤汰月騎手(美浦)が優勝。同日のトライアルラウンド笠松は、第1戦を高杉吏麒騎手(栗東)、第2戦を森田誠也騎手(栗東)が制しています。

●船橋のJBCにミッキーファイト、ウィルソンテソーロらが参戦

JBCクラシック(JpnⅠ、11月3日、船橋、1,800^円)は、ミッキーファイト、ウィルソンテソーロ、サンライズジパング、メイショウハリオ、シャマル、キングズソードの順に有力視されます。

JBCスプリント(JpnⅠ、11月3日、船橋、1,000^円)は、サンライズアムールが中心、ドンフランキー、チカッパ、クロジシジョー、ファーンヒル(大井)が続ぎ、ママコチャとテイエムスパダは初のダートが課題となりそうです。

JBCレディスクラシック(JpnⅠ、11月3日、船橋、1,800^円)は、オーサムリザルト、テンカジョウ、グランブリッジが主力を形成、以下ライオットガール、ビヨンドザヴァレー、アンモシエラまでが争奪圏内と考えられます。

JBC2歳優駿(JpnⅢ、11月3日、門別、1,800^円)は、JRA所属馬ではタマモフリージア、シーズザスローン、ジュウリョクピエロ、ケントン、フルールドールという序列になり、北海道勢では3戦3勝のエンドレスソロウが筆頭格です。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1コックスプレート〜ヴィアシスティーナが連覇達成

現地10月25日にオーストラリア・ヴィクトリア州のムーニーバレー競馬場で行われたG1コックスプレート(3歳上、芝2,040^m)は中国のやや後方を進んだヴィアシスティーナ(牝8歳=現地発表での年齢、父ファストネットロック、C.ウォーラー厩舎)が残り50^mでG1オーストラリアンオークスの勝ち馬トレジャーザモメントをかわして先頭に立つと、最後は同じ厩舎でG1アンダーウッドS勝ちのあるバックラーの追い上げを0.1馬身差しのいで優勝。このレース連覇を達成しました(鞍上のJ.マクドナルド騎手はアナモー、ロマンチックウォリアー、そして昨年のヴィアシスティーナに続くこのレース4連覇)。勝ったヴィアシスティーナは昨シーズン、コックスプレートやクイーンエリザベスS(芝2,000^m)を含む7つのG1を制して豪年度代表馬に選出。今シーズンは初戦となった8月のG1ウィンクスS(芝1,400^m)を制しましたが、その後は9月のG1マカイビーディーヴァSと前走10月4日のG1ターンブルSはともに3着でした。なお、ムーニーバレー競馬場はこの後大規模な改修工事に入るため、来年のコックスプレートはフレミントン競馬場で開催される予定です。